

第109回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナー(徳島)

四国本部 事業委員

大村 史朗

OOMURA Shirou

四国建設コンサルタント(株)



1. セミナーの概要

2026年5月16日(土)、阿波観光ホテルにおいて、第109回CPDセミナー・公開講座・防災セミナーを開催しました。あわせて合格者祝賀会も開催しました。

セミナー参加人数は68名(うち Web 参加10名)、また合格者祝賀会参加人数は56名、うち合格者は8名でした。

表1 プログラム

1. 開会 (13:00~13:25)

(1) 開会挨拶

(公社) 日本技術士会四国本部

本部長 天羽 誠二

(2) 四国本部及び青年技術士委員会の紹介

(公社) 日本技術士会四国本部

広報委員 菊池 昭宏

2. CPDセミナー (13:30~14:30)

演 題:『レアメタルの現況とその湿式リサイクル技術について』

講 師: 徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 助教 花田 隆文氏

3. 公開講座 (14:40~15:40)

演 題:『阿波人形浄瑠璃と徳島の魅力』

講 師: 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 館長 佐藤 憲治氏

4. 防災セミナー (15:50~16:50)

演 題:『流域治水をとおした治水機能と生態系機能の向上・nature positiveの実現に向けて』

講 師: 徳島大学 大学院社会産業理工学研究部(理工学域)教授 徳島大学 環境防災研究センター 環境研究部門長 鎌田 磨人氏

5. 合格者祝賀会 (18:20~20:20)

(1) 開会挨拶 四国本部事業委員長 谷脇 準蔵

(2) 乾 杯 四国本部本部長 天羽 誠二

(3) 中締め 四国本部会計幹事 菊池 昭宏

2. 開会挨拶 天羽本部長

四国本部天羽本部長の開会挨拶で始まりました。



写真1 天羽本部長の開会挨拶

3. 四国本部及び青年技術士委員会の紹介 菊池広報委員

四国本部 広報委員会の菊池委員より、日本技術士会の紹介、また四国4県における青年技術士交流委員会活動について、本年度の活動内容を挙げての紹介がありました。



写真2 菊池広報委員による紹介

4. CPD セミナー 花田 隆文氏

CPDセミナーでは、徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 助教の花田 隆文氏より、『レアメタルの現況とその湿式リサイクル技術について』と題し、ご講演いただきました。

ご講演では、レアメタルに関する政府の定義が「工業需要が現に存在する、あるいは、今後見込まれるものについて、その安定供給の確保が政策的に重要であるもの」であることを示したうえで、我が国では118元素のうち半分近くの55元素が該当すること、またレアメタルはスマホの電子基板、電気自動車の電池・モーターなど最先端のモノづくりに不可欠なことから、安定供給が必要な“産業のビタミン”であるとお話しになりました。また具体的な利用方法として、「アルミニウム(1000系)にスカンジウムを0.2mass%添加することで、降伏強度が10倍以上になる」など、材料の高強度化・軽量化・溶接性向上につながる例などを紹介されました。元素固有の性質により、材料の特性が各段に向上するとのこと。

一方でレアメタルは、例えば白金族金属(白金、ロジウムなど)は南アフリカなどに偏在し、地球上の資源量も限られる(資源供給制約)、またリチウムはナトリウムやマグネシウムとイオンの性質が似ており分離が難しいなど、探査・製錬技術の成熟度・コストに課題がある(技術制約)、豊かな自然環境を保全しつついかに現地住民の理解を得ながら大規模な採掘・製錬プラントを操業するか、また先進国の厳格な排水・排ガス基準を満たすためのコスト負担に課題がある(環境制約)など、この3つの制約が互いに関連し、レアメタルの供給を困難にしていると説明されました。

我が国にも海底熱水鉱床、レアアース泥、マンガン団塊などのレアメタル資源は存在するものの、製錬プロセスの実現には長期間の技術開発が必要なことから、直近の方針としては、資源有効利用だけでなく、国家戦略としてのリサイクル推進、例えば都市鉱山の活用が急務とのこと。そのうえで、リサイクル推進にも資するレアメタルの分離技術として、ご自身の研究内容である環境に優しく実用を指向した環境調和型溶媒の開発・応用技術とその研究状況を紹介され、循環を成熟させレアメタル資源大国を次世代へつなぐため、レアメタル分離技術の革新を目指すとして、ご講演のまとめとされました。



写真3 花田氏のご講演

5. 公開講座 佐藤 憲治氏

公開講座では、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 館長の佐藤 憲治氏より、『阿波人形浄瑠璃と徳島の魅力』と題し、ご講演いただきました。

ご講演では、まず文化とは、何を美しいと思い、どんな街に住んで、どんな生活を送りたいかということではないかとお話しされたうえで、ドイツのニーダーザクセン州やリュネブルグ市、日本の脇町うだつの街並みや三好市の落合集落、出羽島ミセづくりの街並みを示し、街並み・景観は文化の結晶でもあると紹介されました。

そのうえで、阿波人形浄瑠璃という芸能が、人形と浄瑠璃(太夫の語りと三味線の音色で奏でる「語りもの音楽」)から成り、その繊細、丁寧、緻密、簡素な表現は、400年以上かけて磨き上げてきた日本人の美意識であると述べられました。

人形作りは徳島で多く行われ海外からも引き合いがあること、人形浄瑠璃は徳島県各地の農村舞台で地域の人々の暮らしに密着して受け継がれてきたこと、それ故に徳島県の農村舞台の数は200以上と、全国でもトップクラスであることをお話しになり、まとめとされました。



写真4 佐藤氏のご講演

6. 防災セミナー 鎌田 磨人氏

防災セミナーでは、徳島大学 大学院社会産業理工学研究部(理工学域)教授、徳島大学 環境防災研究センター 環境研究部門長の鎌田 磨人氏より、『流域治水をととした治水機能と生態系機能の向上・nature positive の実現に向けて』と題し、ご講演いただきました。

ご講演では、近年求められている流域治水のあり方として、大河川では利水ダムの事前放流や河道掘削等による治水対策、中小河川（支川）では水田貯留やため池貯留、調整池、高リスク地域における土地利用規制や安全な地域への移転等を組み合わせた、流域全体での取組が重要と説明されました。そのうえで、吉野川支川である飯尾川を対象とした流域治水システムと、飯尾川における伝統的な治水施設として加減堰、伝統的な利水施設として麻名用水取水堰等を紹介されました。近年の治水手法としては、農業用ため池の活用、田んぼダムの検討等が挙げられるが、田んぼダムは、流域全体の浸水被害額縮減に効果を有する一方、上流域と下流域の間、農業部門とその他の部門との間で受益差があることが課題とされました。

その後、流域に生息するナベヅルやコウノトリ、カエル等を取り巻く現況を示したうえで、流域治水においてもネイチャーポジティブの考えのもと、複合的な便益を享受できる(シナジーを創発する)流域管理シナリオの作成、流域治水につながる自律的活動の創出促進、伝統知・生活知・伝統的土地利用の維持・継承につながる政策パッケージを提案することが重要として、まとめとされました。



写真5 鎌田氏のご講演

7. 合格者祝賀会

セミナーの後、祝賀会が開催されました。

四国本部の谷脇事業委員長の開会挨拶、天羽本部長の乾杯の音頭により祝賀会が始まりました。2時間余りの歓談の後、四国本部 菊池会計幹事の中締めにより、祝賀会も無事終了することができました。



写真6 谷脇事業委員長の乾杯



写真7 菊池会計幹事の中締め
(手話通訳 芝高氏)

7. おわりに

セミナー参加者は、計68名のうち会員が48名、協賛団体所属が10名、非会員が5名、一般が5名(講師3名含む)でした。今回も Web 配信を行っており、遠くは中部本部から計8名の方々にご参加いただけたことはうれしい限りです。

今後は、(一社)建設コンサルタント協会、(一社)徳島県測量設計業協会等への後援依頼や技術士会独自の広報活動を展開するとともに、セミナー内容の充実により、出席者の確保に努めて参ります。